



挨拶のかたち

一学期末に行いました学校評価へのご協力ありがとうございました。結果をまとめたものにつきましては別途配布しておりますのでご覧いただけたらと存じます。

今回の結果を受け、教育活動の中で今後大事にしていきたいと感じたことの一つに「礼儀やあいさつ」があります。これについては、記述による評価でもご意見の多かった項目です。ご意見を紹介させていただくと「知っている人にはあいさつはできていますが、少し知らない人だとできてないように思います。」というご指摘がありました。中には「先生でも挨拶してくれない人がいる。」と書いていただいているものもあり、『自分自身のことかしら?』と、我が身を振り返りドキッとしたりします。子どもに真似してほしいことは大人が率先してできなければならないと居住まいを正す思いです。

朝、児童玄関で子どもたちが登校してくる様子を見てみると、いろんな形のおはようございますに出会います。とっても大きな声で挨拶してくれる子、玄関のドアを通るときに「おはようございます」と言ってくれたのに目の前に来た時に改めてもう一度伝えてくれる子、観察シートを出すときに丁寧に「お願いします」と言って回収ケースにシートを入れてくれる子…。また、声は聞こえないけどマスク越しに口が動いているのが伝わってきたり、目で挨拶してくれたりする子たち。

挨拶が与えてくれることはいろいろあります。元気な挨拶はしゃきっとさせてくれます。昨日と変わらぬ挨拶は安心させてくれます。丁寧な姿勢にはスッと心をやわらかくさせてくれます…。そんなふうに挨拶は言葉や態度で気持ちを心地よく、前向きにさせてくれます。よく耳にする言い回しですが、“**挨拶は魔法の言葉**”ってホントだなんて実感します。そんな魔法を当たり前に見える子どもたちから、元気をもらっているように感じます。

少し脱線しますが、挨拶にはいろいろな形があるんだなぁと感じます。たとえば、夏休み明けに実施された修学旅行に出かけた6年生教室の黒板には5年生が書いてくれた“おかえりのメッセージ”、同様に1学期に行われた宿泊研修の時にも、5年生教室の黒板に6年生からの“メッセージ”が寄せられていました。顔を合わせなくても、思いを伝えることができるんだって感じました。

また別の場面ですが、作品発表会での子どもたちの様子についてふれたある学級のお便りに、

「作品発表会での拍手、しっかりできていましたよ。おじぎもしっかりできていて、良かったです。」

そういう動きも大事な挨拶です。」

…という言葉がありました。

相手に気持ちを伝えたい、相手に近づきたい。そんな気持ちが挨拶にあらわれるのだとすれば、口にする言葉だけでなく、表情や身振りで、そして文字で。そんなふうに、挨拶にはいろいろなかたちがあることに気付かせてもらいました。

挨拶ってたぶん“しなければいけない”ものではなく“したほうがいい”ものなんだと思います。そこに相手を思う気持ちがのったとき、挨拶は“したくなる”ものになるのだらうと思っています。子どもたちと、もっともっと**挨拶の楽しさ**を分かち合っていけたらと考えています。

日中、見かける機会が少なくなったモンシロチョウに混ざって時折、秋茜。少し前は入道雲らしき雲が空にモクモクしていたのに、気が付くと青薄くなった空を鯖雲が悠々と通り過ぎていきます。

朝晩と日中の寒暖差が気になり始める頃。どうぞお体にご留意いただければと存じます。